

「 土砂災害をなくすために 」

神奈川県 湯河原町立東台福浦小学校 5年 中里 優太郎

4年前の夏のある日、お父さんが働く僕の町の隣の市で、大きな土砂災害が起きました。30人近くの人が亡くなり、今も行方が分からぬ人がいるそうです。僕はそのニュースを聞いて、とても驚きました。さらに心配だったのは、その日お父さんが仕事先から帰ってこられなかつたことです。土石流で道路が分断され、家までの道がふさがれてしまったからです。お父さんから「今日は帰れない」と電話があったとき、無事でよかったですという安心と、これ以上災害が広がらないでほしいという気持ちでいっぱいになりました。

テレビのニュースでは、山からものすごい量の土砂が川のように流れていく映像が流れています。茶色く濁った土砂が道路や家を押し流していく様子は、まるで自然が暴れているように見えました。さらに映像の中には、僕たち家族がよく出かけるときに通る道が映っていました。その道は土砂に埋もれ、元の形がわからなくなっていました。あの場所は、いつも静かで安全だと思っていたので、その変わり果てた姿にぞつとしました。「もしあのときお父さんや僕がそこにいたら」と考えると、とても怖くなりました。

ニュースを見ていると、この土砂災害の原因がわかつてきました。原因是大量の違法な盛り土だったそうです。盛り土とは、土地を高くするために土を積み上げることですが、今回の盛り土には大量の産業廃棄物が混ざっていたそうです。本来は安全のために処理しなければならないものが、そのまま埋められていたのです。それが大雨で崩れ、土砂と一緒に流れ出したと聞きました。この問題は、まだ完全に解決していないそうです。何も悪くない人が急に巻き込まれ、命を失ったり、家を失ったりするのは、本当に悲しいことです。僕は、「どうしてこんな危ないことをするのだろう」と、怒りを感じました。

この出来事から、僕は自然と人間の関わり方について考えるようになりました。自然の形をむやみに変えたり、森林を切り倒したりすることは、その土地のバランスをこわすことにつながります。山や森は、雨をためたり、土が流れないように守ったりする大切な役目を持っています。それを人間が勝手に壊してしまうと、災害が起ります。僕は、もう二度と同じような災害が起きないように、みんながルールを守り、自然を大切にしてほしいと思います。自分の町でも、山や川の様子、工事の仕方に注意を向けることが、命を守る第一歩だと感じました。